

第6回

すさき野外博物館開催

ツバメの塹（ねぐら）入り
8月18日（土）
午後6時から、第6回「すさき野外博物館」が行なわれました。今回は、昨年の8月と同様講師には、すさき野外博物館ではおなじみとなりました「NPO法人 四国自然史科学研究所センター」の谷地森秀二先生をお迎えし、須崎市桐間地区にあるヨシ原で「ツバメの塹（ねぐら）入り」を観察しました。

桐間地区は高速道路の延伸に伴い、開発が進められている地区の一つですが、周辺に残っている自然環境には、たくさんのお楽しみが待っています。期待しながら待つ事にしました。ツバメがやってくるまでの間、ヨシ原付近を観察する



ツバメが塹として残っている桐間地区のヨシ原。昨年と同じ状態で残っていました。

きものが暮らしています。桐間地区のヨシ原に見られるツバメもそのひとつです。ツバメは、7月頃になると子育てを終え、その後、親ツバメと巣立ったヒナたちは、数千羽から数万羽の集団を形成し、アシ原やヨシ原に「塹」を作り、南へ渡るまでの間を過ごします。

「アオサギ」「コイサギ」「シラサギ」などがいました。「アオサギ（青鷺）」「コイサギ（五位鷺）」について
アオサギは、首は長く白色をしており、体は灰色で、日本で見られるサギの中でも、最も大きなサギの一種です。「アオ」は古語で「灰色」をいうので、英名も「Grey Heron（灰色のサギ）」というそうです。この辺りでは、屋間でもよく見ることが出来ます。いつ見てもじっとしていて、あまり動かない印象です。



アオサギ。体高は 90cm～98cm。魚や昆虫などを食べて暮らしています。

「コイサギは、夜行性で、英名も「Night heron（夜のサギ）」というそうです。首は長くなく、ツバメが塹入りすること入れ替わるように活動する

「シラサギ」について
シラサギは、「ダイサギ（大鷺）」「チュウサギ（中鷺）」「コサギ（小鷺）」などの総称で、シラサギという名前のサギはいないそうです。見分け方は、大きさ（大、中、小）、くちばしや足の色、見られる季節などによって見分けられるそうです。また、ダイサギの中にも、「ウダイサギ」などがいるらしい



サギを観察する参加者。アオサギなどは、ほとんど動きませんでした。

るそうです。ちなみに、「コイ」は平安時代に醍醐天皇から「五位」の位を授かった事に

天気はくもり。桑田山を見る
と山頂付近はぐんぐんとした
雨が先か、ツバメが先か……。桑田山は雲ですっぽり隠れています。



雨が先か、ツバメが先か……。桑田山は雲ですっぽり隠れています。

午後6時30分、空を見上げるも、ツバメがやってくる気配はありません。それに加え、

塹入り ツバメ来なけりやお蔵入り



ロシアのマトリョーシカ人形みたいだね

く、初心者が見分けることは非常に難しいそうです。

しんじょう

2007. 9. 1
すさき・かわうそクラブ会報
—No. 9—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

雲で隠れており、今にも雨が降りそうな予感・・・。
 昨年もそうでしたが、「ほんとは来るのか」という不安が頭をよぎります。

キタ

午後6時45分頃、2〜3羽のツバメの姿が確認されました。その後、どこからともなく集ってきたツバメは、やがて空を被う大群となりました。参加した子どもは「虫の大群みたい」と話していました。



空を見上げる参加者。「おお〜っ」と声をあげていました。

実際に虫の大群（たぶん、イナゴだろう）を見たことはありませんが「ほんまやね」と同感してしまいました。
 ものすごい数で勢いよくヨシ原に突っ込んでいきます。それを何度か繰り返した後、午後7時過ぎには帰入りを終

えました。

これだけいたら、下はフンだらけかと思われそうですが、周囲にそのような形跡はなく、観察中も、落ちてきませんでした。（たまたまかもしれませ



写真ではわかりにくいですが、とにかくものすごい数です。

んが・・・）現地で観察などをする際には、環境や生きものたちの事を考え、マナーを守るよう、お願いします。



今後の予定(19年度)

すさき野外博物館は、下記の内容を予定しています。詳しい内容や日時などは、広報や、各公民館・学校などに配布するチラシでお知らせします。みなさん、ぜひご参加ください。

- 第7回 サシバの渡り(10月)
- 第8回 カンムリカイツブリの湾(2月)

すさき野外博物館
 次回(10月8日)は
 「サシバの渡り」です

「サシバ」は里山にすむタカの仲間です。春に日本へ子育てのために渡ってきて、秋には大群で東南アジアへ帰っていきます。須崎市は、その渡りのルートに入っています。次回は、虚空蔵山の山頂で南へ渡っていくサシバやハチクマなどのタカの仲間を観察します。

メジカが旬です。

今、須崎では「メジカ」が旬を向かえています。

メジカとは「ソウダガツオ」の事です。須崎では夏になると新鮮なメジカの刺身を待ち遠しく思っている人がたくさんいます。普段は厳しい表情をしている人も、「おいしいメジカが入った」と聞くと、笑顔になります。

「りゅうぎゅう」を下に敷き、「すみかん」を添えるのが定番です。

すみかんをしぼった醬油に、りゅうぎゅうと一緒につけて食べます。「もちもち」とした独特の食感で、すみかんの皮を削り、めじかにまぶすと、さらに風味が増します。



メジカの刺身。りゅうぎゅう、すみかんもセットで、夏の定番です。

「すさき・かわうそクラブ 会員募集中」



「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援して下さる方を募集しています。詳しくは、事務局までお問合せください。また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

(事務局) 須崎市企画課 〒785-8601 高知県須崎市山手町1-7
 TEL 0889-42-5691 FAX 0889-42-7320
 E-mail kikaku2@city.susaki.kochi.jp